

劇症型溶血性レンサ球菌感染症【沖縄県：2006年～2023年】

県内データは2024年5月14日現在

感染症発生動向調査において、2006～2023年[※]に診断され、届出された劇症型溶血性レンサ球菌感染症の情報^{※※}を還元します。

※疫学週によります。具体的な集計対象期間は下表のとおりで、診断日を基に集計しました。

※※県内データは2024年1月30日現在で、全国データの作成時点は下表のとおりです。

所属年	集計対象期間	全国データ作成時点
2006年	2006年1月2日 ～ 2006年12月31日	2009年03月01日
2007年	2007年1月1日 ～ 2007年12月30日	2009年03月01日
2008年	2007年12月31日 ～ 2008年12月28日	2009年03月07日
*2009年	2008年12月29日 ～ 2010年1月3日	2011年04月23日
2010年	2010年1月4日 ～ 2011年1月2日	2012年02月25日
2011年	2011年1月3日 ～ 2012年1月1日	2013年02月16日
2012年	2012年1月2日 ～ 2012年12月30日	2013年11月09日
2013年	2012年12月31日 ～ 2013年12月29日	2014年10月19日
2014年	2013年12月30日 ～ 2014年12月28日	2015年10月25日
*2015年	2014年12月29日 ～ 2016年1月3日	2016年10月23日
2016年	2016年1月4日 ～ 2017年1月1日	2017年10月28日
2017年	2017年1月2日 ～ 2017年12月31日	2018年10月27日
2018年	2018年1月1日 ～ 2018年12月30日	2019年10月26日
2019年	2018年12月31日 ～ 2019年12月29日	2020年10月31日
*2020年	2019年12月30日 ～ 2021年1月3日	2021年10月30日
2021年	2021年1月4日 ～ 2022年1月2日	2022年10月08日
2022年	2022年1月3日 ～ 2023年1月1日	2023年10月28日
2023年	2023年1月2日 ～ 2024年12月31日	2024年03月09日

*2009年、2015年および2020年は53週間、その他の年は52週間となっています。

(1) 届出数の推移（沖縄県・全国）

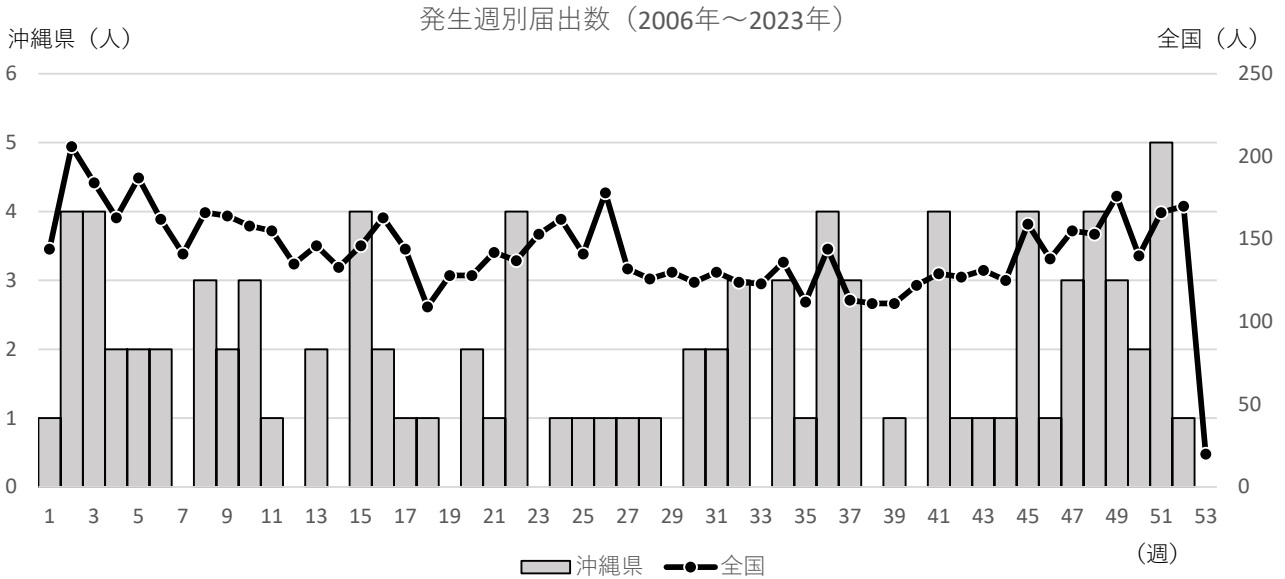
2023年の沖縄県における届出数は15人で、2006年以降最多でした。

2023年の全国における届出数は949人で、2006年以降最多でした。



(2) 発生（診断）週別届出数（2006年～2023年沖縄県・全国）

沖縄県、全国ともに週別の届出数に大きな偏りはみられませんでした。

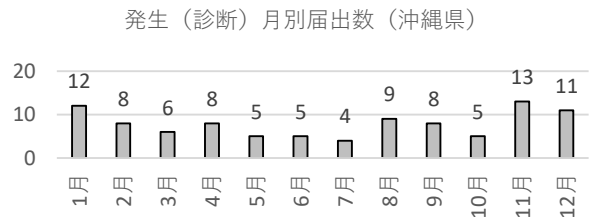
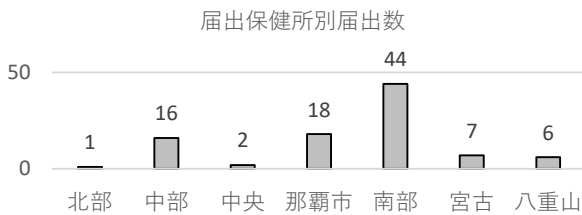


(3) 届出保健所別・発生（診断）年別、発生（診断）月*別届出数（2006年～2023年沖縄県）

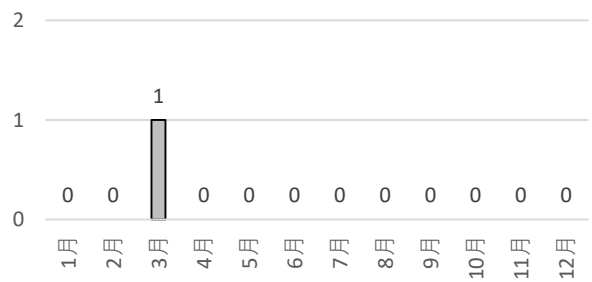
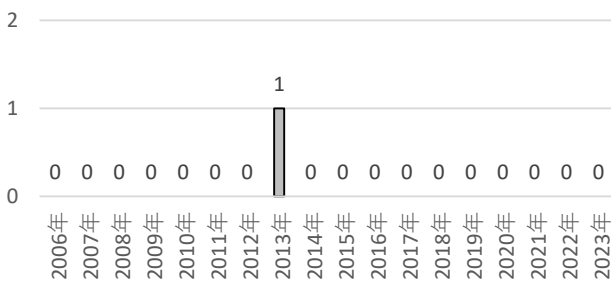
届出保健所別届出数は南部保健所が最多でした。

*発生（診断）月は診断日に基づき集計

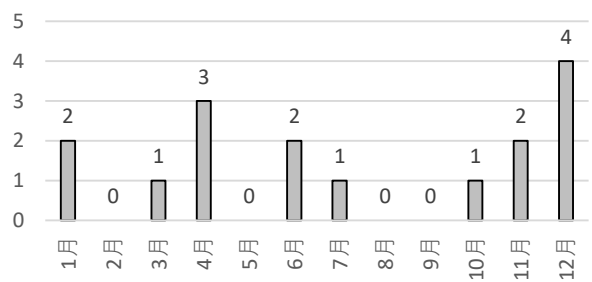
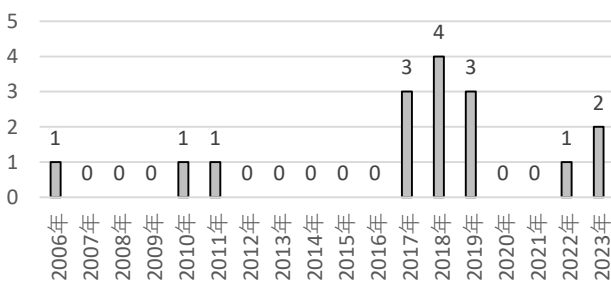
発生月別届出数は11月が最多でした。



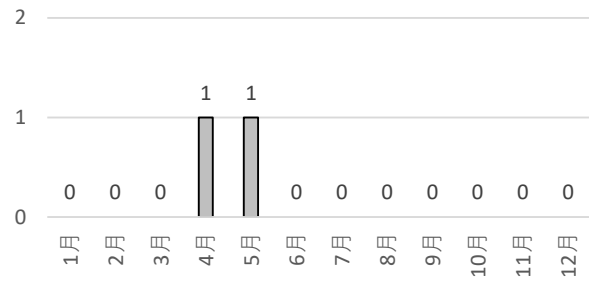
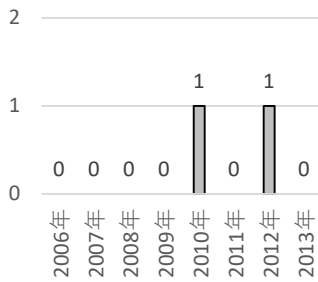
①北部保健所



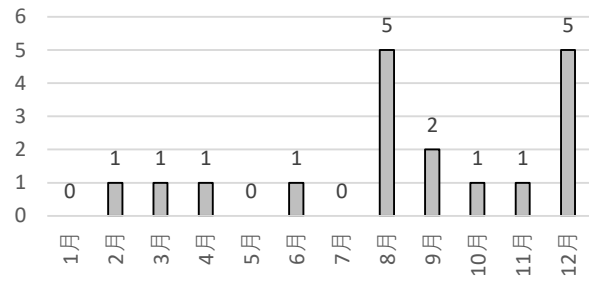
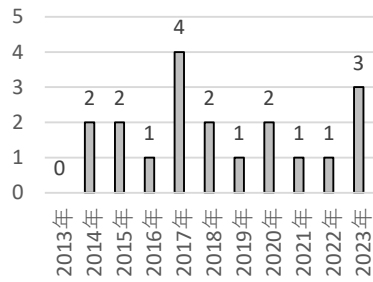
②中部保健所



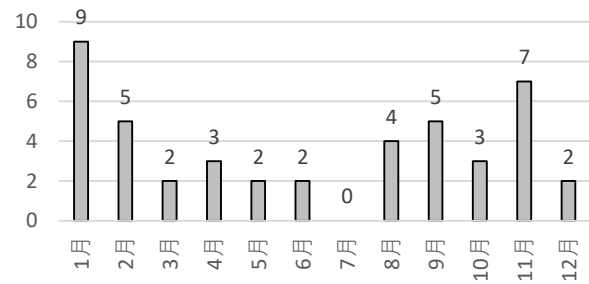
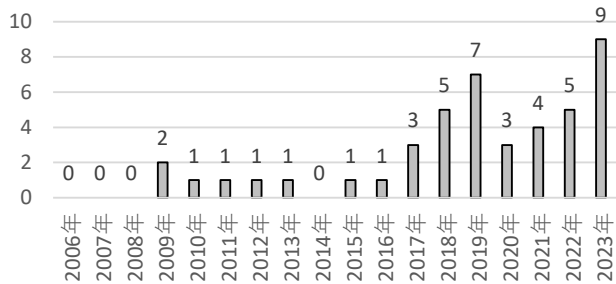
③中央保健所（2013年3月31日まで）



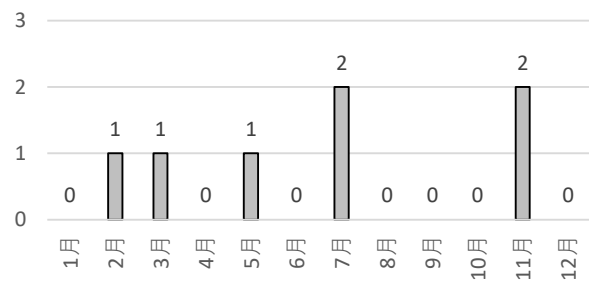
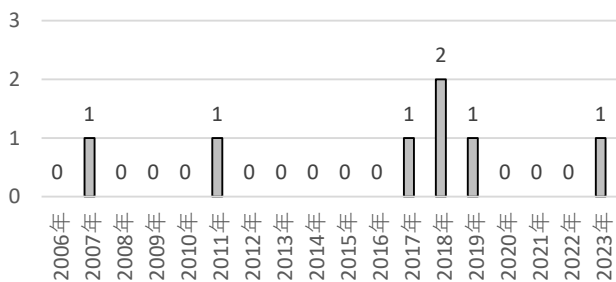
④那覇市保健所（2013年4月1日より）



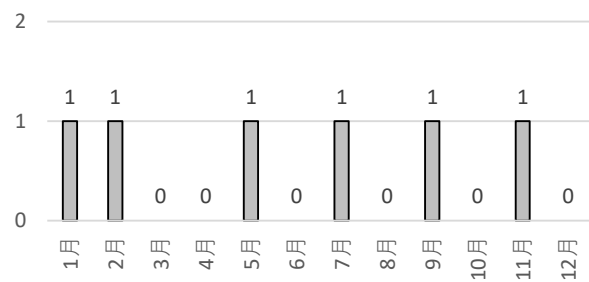
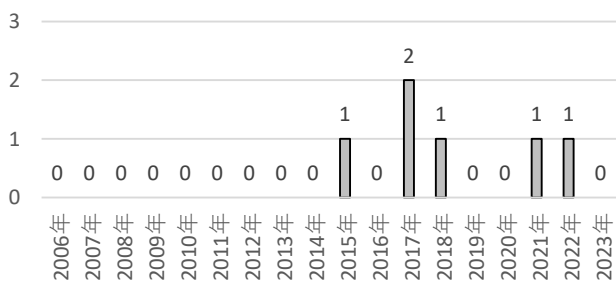
⑤南部保健所（2013年4月1日より所管圏域拡大）



⑥宮古保健所



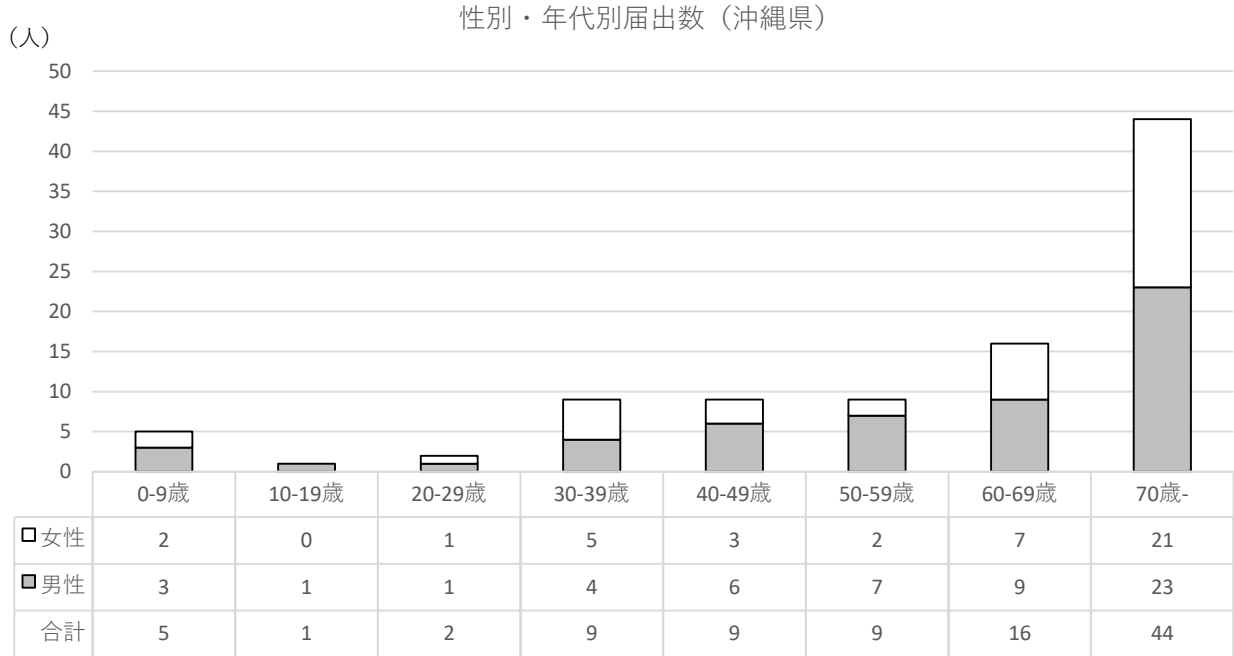
⑦八重山保健所



(4) 性別・年代別届出数 (2006年～2023年沖縄県)

届出された95人中、男性は54人(57%)、女性は41人(43%)でした。

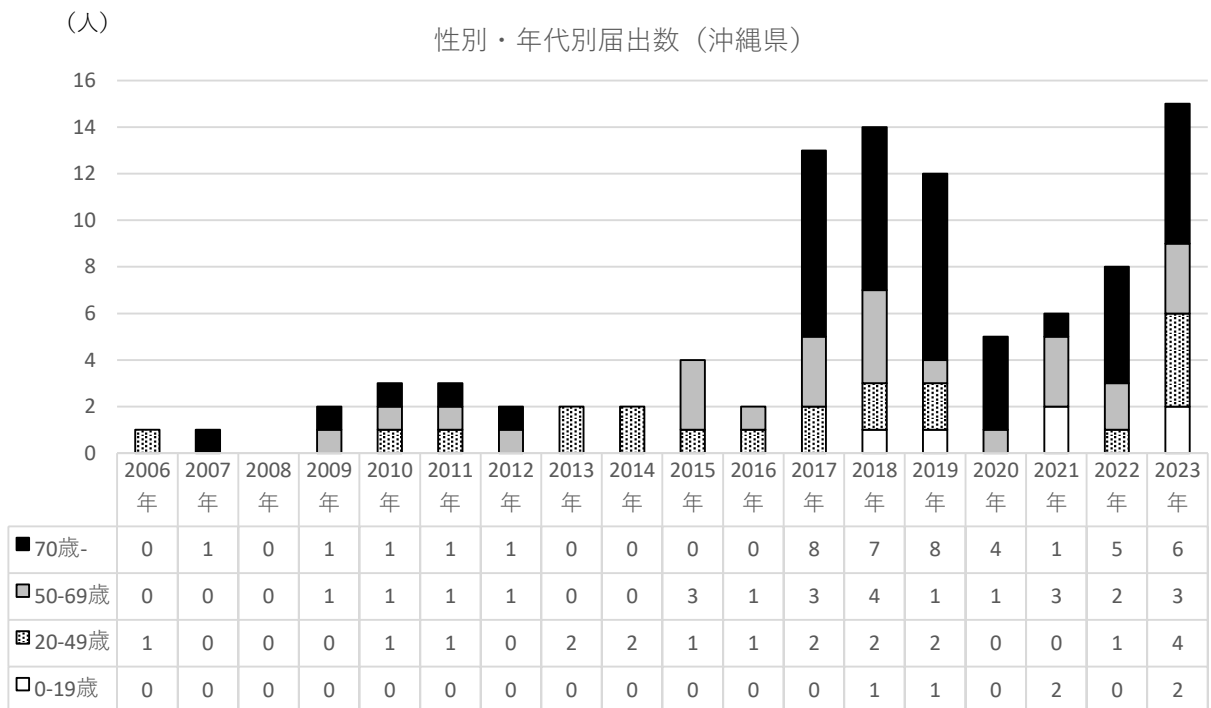
年代別でみると70歳以上の届出が44人(46%)と最も多く、次に多い60-69歳(16人・17%)と合わせると60歳以上が全体の63%を占めていました。



(5) 年別・年代別届出数 (2006年～2023年沖縄県)

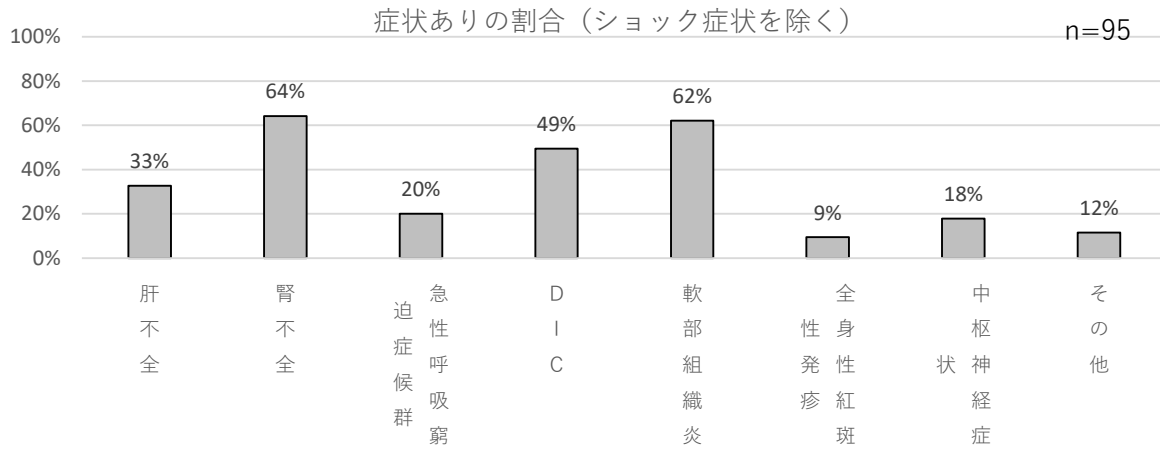
2017年以降、70歳以上の届出が多くあります。

2023年は49歳以下の届出が6人と2006年以降最多でした。



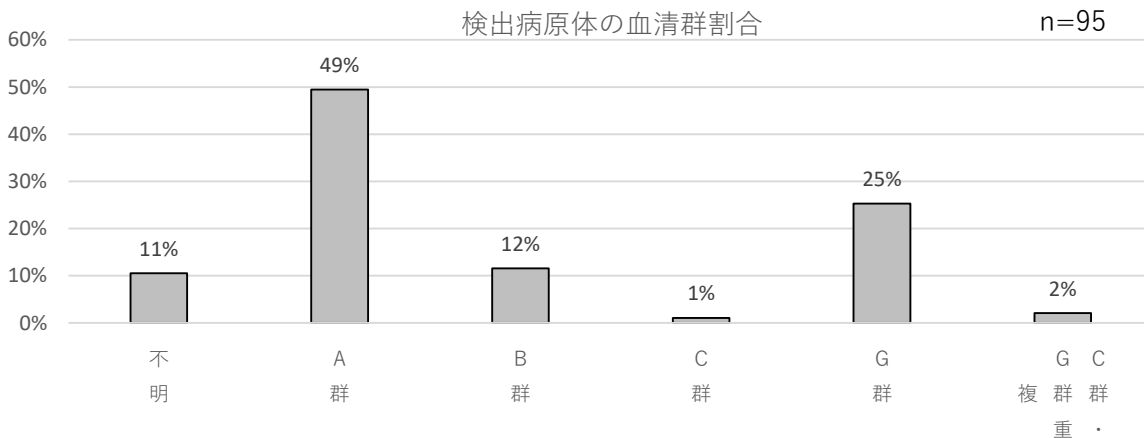
(6) 症状ありの割合 (2006年～2023年沖縄県、ショック症状を除く)

ショック症状を除いた症状ありの割合は、腎不全が64%と最も高く、軟部組織炎が62%、DICが49%と続きました。



(7) 血清群の割合 (2006年～2023年沖縄県)

診断時に検出された病原体の血清群はA群が49%と最も高く、G群が25%、B群が12%、C群・G群重複が2%、C群が1%と続き、11%は不明でした。



(8) 感染経路 (推定含む) の割合 (2006年～2023年沖縄県)

創傷感染が54%と最も高く、複合・その他・不明が40%、飛沫・飛沫核感染が5%、接触感染が1%と続きました。

